

令和8年度の観光振興施策の方向性について



令和7年11月21日
福岡県商工部観光局



1 第三次福岡県観光振興指針（2024年度～2026年度）について

1

● 目指す将来像 ⇒ 「“つながる” 福岡観光」

基本方針

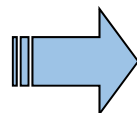
- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 回復するインバウンド需要の本県への着実な取込 | 3 観光DXの推進 |
| 2 リピーターの確保と県内の周遊促進 | 4 持続可能な観光（観光SDGs）の推進 |

● 施策の柱と方向性

施策の柱

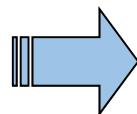
1 受入環境の充実

- 全ての旅行者が快適に旅行を楽しめる環境整備



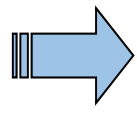
2 観光資源の魅力向上

- 旅行者の県内周遊の促進、滞在時間や旅行消費の拡大



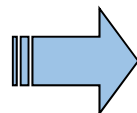
3 戦略的なプロモーション

- 本県の認知度向上、国内外からの更なる誘客促進及び安定的な旅行需要の喚起



4 観光振興の体制強化

- 各地域の観光を支える人づくり
- 戦略的な観光振興施策の推進 など



施策の方向性

- ① 誰もが快適に観光できる基盤づくり
- ② 観光振興と地域の調和の推進
- ③ 国際航空路線の誘致

- ④ 魅力ある観光地域づくり、観光資源の開発
- ⑤ 体験、交流、滞在型観光の推進

- ⑥ デジタルプロモーションの推進
- ⑦ 本県の強みを活かしたプロモーション
- ⑧ 九州一体となったプロモーション
- ⑨ 県内全域における安定的な旅行需要の喚起

- ⑩ 各地域の観光を支える人づくり
- ⑪ デジタルマーケティングの強化
- ⑫ 観光関連団体の機能強化
- ⑬ 市町村が実施する観光振興施策への財政的支援

1 第三次福岡県観光振興指針（2024年度～2026年度）について

2

● 目標値（KPI）

数値目標	参 考 2019年(R1)	2022年(R4)	2023年(R5)	2024年(R6)	目標 達成率	目標値 2026年(R8)
延べ宿泊者数	2, 042万人泊	1, 399万人泊	2, 112万人泊	2, 395万人泊	102.2%	2, 344万人泊
うち日本人	1, 616万人泊	1, 339万人泊	1, 609万人泊	1, 656万人泊	93.5%	1, 772万人泊
うち外国人	426万人泊	61万人泊	504万人泊	739万人泊	129.2%	572万人泊
旅行消費額	9, 934億円	(※1) -	9, 659億円	13, 252億円	108.6%	12, 200億円
うち日本人	7, 996億円	5, 477億円	6, 949億円	9, 287億円	105.5%	8, 800億円
うち外国人 (※2)	1, 938億円	(※1) -	2, 710億円 (※4)	3, 965億円	116.6%	3, 400億円
旅行消費単価 (日本人)	44, 615円	44, 869円	54, 442円	56, 744円	111.7%	50, 800円
旅行消費単価 (通常入国外国人)	65, 700円	(※1) -	87, 512円	95, 485円	111.8%	85, 400円
リピーター率 (日本人)(※3)	—	68. 1%	65. 6%	65. 6% 【2023年(R5)】	93.7%	70%
リピーター率 (アジア)	—	—	40. 1%	42. 3%	94.0%	45%
リピーター率 (欧米豪)	—	—	21. 7%	36. 2%	144.8%	25%

【出典】

- ・延べ宿泊者数：観光庁「宿泊旅行統計」
- ・旅行消費額：観光庁「旅行・観光消費動向調査」、観光庁「インバウンド消費動向調査」及び法務省「出入国管理統計」を基に福岡県算出
- ・旅行消費単価：観光庁「旅行・観光消費動向調査」「インバウンド消費動向調査」
- ・リピーター率：「福岡県観光ビッグデータ調査」(アンケート調査)

※1 旅行消費額(外国人)、旅行消費単価(通常入国外国人)については、国調査(観光庁「訪日外国人消費動向調査」)が、2022(令和4)年7～9月期まで全国籍・地域のための公表としているため不明。

※2 旅行消費額(外国人)の把握方法については、以下①+②の合計。

① 通常入国分(旅行消費単価(通常入国外国人)×外国人来訪者数(観光庁「訪日外国人消費動向調査」に基づき推計))

② クルーズ船入国分(旅行消費単価(クルーズ客)×クルーズ船入国者数(法務省「出入国管理統計」))

※3 過去3年間に福岡県の訪問回数が2回以上の県外在住者の割合。

※4 調査が再開された2023年4-12月(通常入国外国人)及び7-12月(クルーズ調査)の結果を基に算出

注：表示単位未満四捨五入の関係で、積上げと合計が一致しない箇所がある

1 第三次福岡県観光振興指針（2024年度～2026年度）について

3

4つの施策に係る目標

- 1 受入環境の充実
- 2 観光資源の魅力向上

- 3 戦略的なプロモーション
- 4 観光振興の体制強化

1 受入環境の充実

成果指標	当初値 (2022年,R4)	2024年(R6)	目標値 (2026年,R8)
宿泊施設の生産性向上支援件数	38件／年	34件／年	累計150件
旅行者満足度(日本人)	87. 5%	88. 2%	90%
旅行者満足度(外国人)	94. 9% 【2023年,R5】	87. 9%	97%
住民満足度(観光振興による福岡県の活気の実感)	58. 9%	70. 6%	70%
福岡空港の新規国際路線誘致数	—	累計4路線 ※R5年度から	累計4路線

2 観光資源の魅力向上

成果指標	当初値 (2022年,R4)	2024年(R6)	目標値 (2026年,R8)
福岡県広域サイクリングルート of 整備数 (県管轄区間)	3ルート	4ルート	7ルート
高付加価値な旅行商品(※)の販売数	—	16商品	累計30商品

※特別な体験を提供することなどにより、目標値(KPI)に掲げている旅行消費単価の約2倍(日本人向けは10万円、外国人向けは20万円)以上となる旅行商品(県が造成に関わり、かつ、政令市以外の訪問を含む旅行商品に限る)。

3 戦略的なプロモーション

成果指標	当初値 (2022年,R4)	2024年(R6)	目標値 (2026年,R8)
福岡の認知度(アジア)	31%(15位) 【2023年,R5】	30%(13位)	37%(12位)
福岡の認知度(欧米豪)	8%(15位) 【2023年,R5】	6%(15位)	10%(14位)
政令市以外を訪問した旅行者の割合 (日本人)	48. 5% 【2022年,R4】	46. 7% 【2023年,R5】	50%
政令市以外を訪問した旅行者の割合 (外国人)	23. 5% 【2022年,R4】	26. 1% 【2023年,R5】	25%

4 観光振興の体制強化

成果指標	当初値 (2022年,R4)	2024年(R6)	目標値 (2026年,R8)
観光産業を支える人材の育成人数	累計3, 033人	1, 297人	累計3, 000人
新規事業を創出したDMOの数	—	8団体	累計10団体

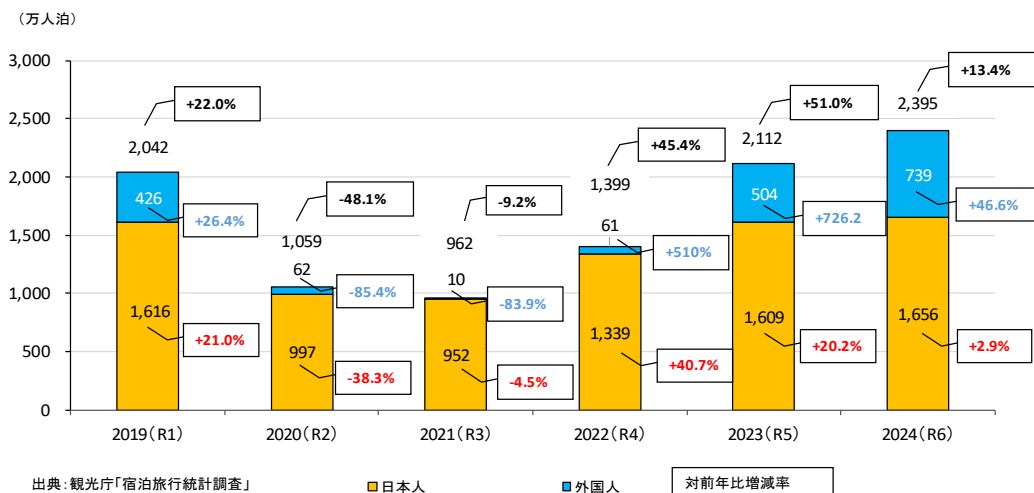
2 本県の現状と課題について

4

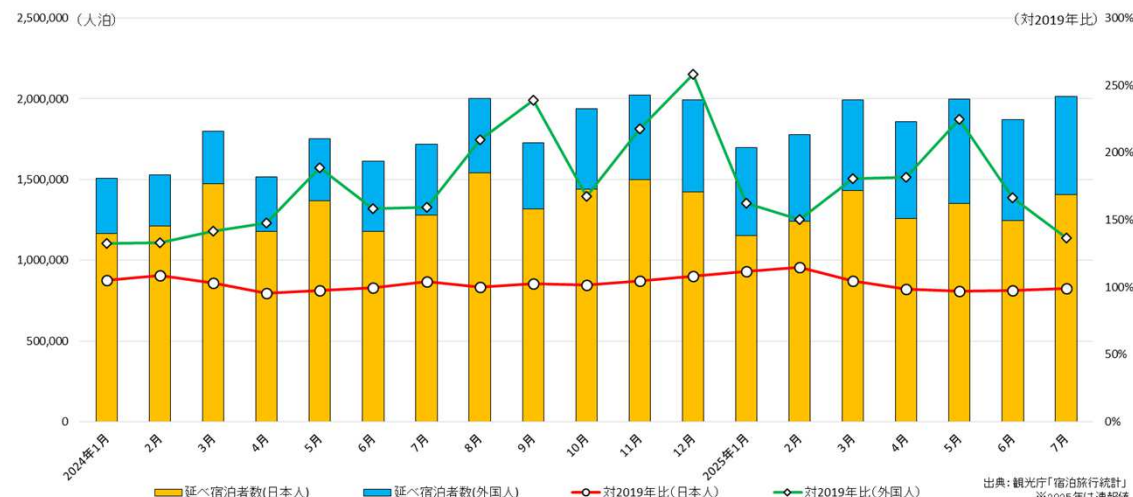
(1) 宿泊者の現状①（延べ宿泊者数）

- 本県の延べ宿泊者数は、2019年に初めて2,000万人泊を突破し2042万人泊となったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年は1,059万人泊、2021年は962万人泊と大きく落ち込んだ。2022年3月に、まん延防止等重点措置が解除され徐々に回復をみせ、昨年は過去最高となる2,395万人泊となった。
- 特に、外国人の延べ宿泊者数は、コロナが5類に移行した2023年5月以降急速に回復。コロナ前の2019年比で100%を超え推移している状態が続いており、昨年以降、2019年同月比1.5～2.5倍程度で推移している。
- 堅調な外国人延べ宿泊者数に対し、日本人延べ宿泊者数は横ばいの状態である。全体の約7割を占める日本人宿泊者の更なる需要喚起に向けた取組が必要。

本県における延べ宿泊者数の推移（年別）



本県における延べ宿泊者数の推移（月別）



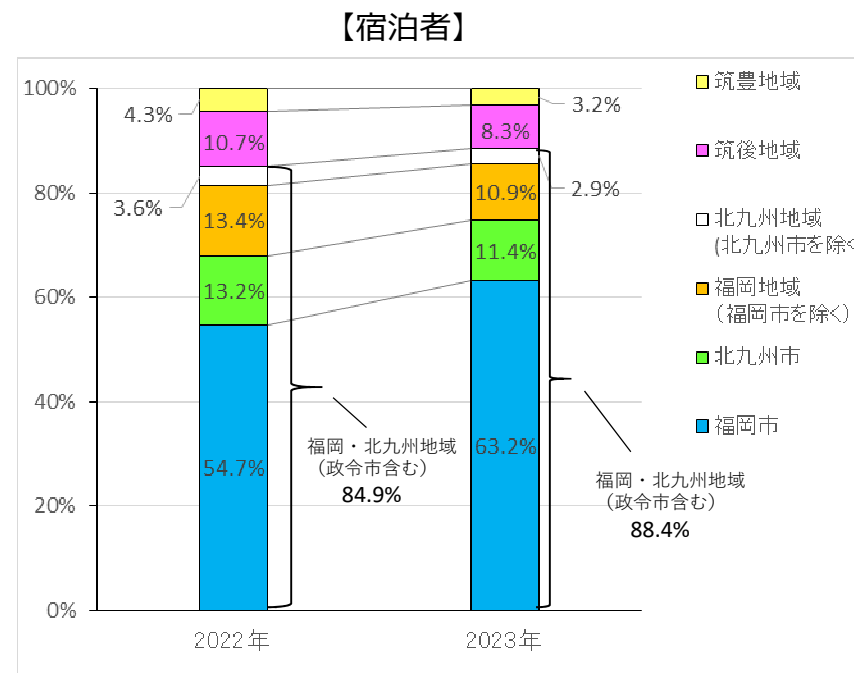
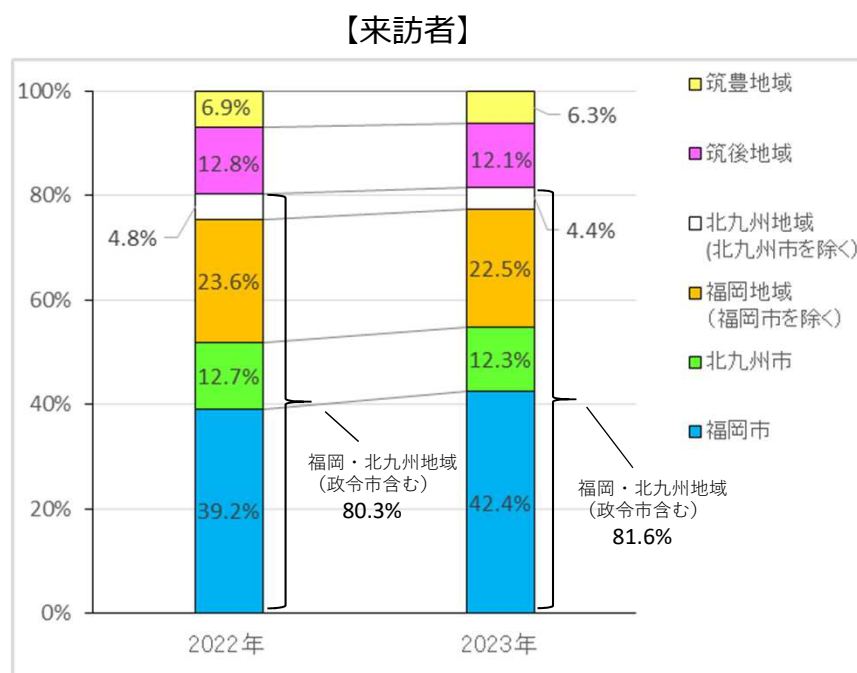
2 本県の現状と課題について

5

(1) 宿泊者の現状②（地域ごとの分布状況）

- 県内の観光客の分布状況を地域別に見ると、来訪者・宿泊者ともに、両政令市、特に福岡市に集中している。
- 2023年の来訪者については、両政令市と福岡・北九州の両地域で8割以上（81.6%）を占めている。また、宿泊者についても同様の傾向で約9割（88.4%）を占めている。
- 来訪者及び宿泊者を政令市以外の県内各地へ周遊させる取組により、県内各地域で観光需要をしっかりと取り込み、地域経済を活性化させることが必要。

観光客の県内各地における分布状況



出典：「モバイル空間統計」による福岡県観光ビッグデータ調査
(2023、2024年度福岡県「旅行者の周遊等の状況に関する調査」対象期間：2022.1.1～12.31、2023.1.1～12.31)

2 本県の現状と課題について

6

(1) 宿泊者の現状③（客室稼働率）

- 県内の旅館業法許可施設の客室稼働率は、コロナ禍で大きく落ち込んでいたが、コロナ後から順調に回復しており、昨年から直近にかけては全国平均を10ポイント近く上回って推移している。
- 特徴として、ビジネスホテルやシティホテル・簡易宿所の稼働率は全国平均を上回っている一方、旅館の稼働率は、コロナ前後を通じて全体的に全国平均を大きく下回る稼働率が続いている。
- 宿泊産業は地域の雇用と観光産業の基盤を支える重要な産業であることから、旅行者のニーズを満たすハード・ソフト両面での対策や、生産性向上を通じた競争力の強化とともに、旅館やリゾートホテルが多い政令市外での宿泊を促進する取組が必要。

客室稼働率の推移（宿泊施設タイプ別）

	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	2025年(R7)						
					1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
全国 (A)	34.3%	46.6%	57.0%	59.6%	54.6%	60.2%	61.3%	61.6%	61.8%	59.0%	61.4%
旅館	22.8%	33.1%	36.7%	36.1%	32.9%	36.6%	38.4%	35.3%	38.7%	35.3%	37.6%
リゾートホテル	27.3%	43.4%	51.9%	54.1%	51.4%	58.4%	57.4%	53.8%	54.6%	51.0%	56.8%
ビジネスホテル	44.3%	56.7%	69.2%	73.7%	66.7%	74.3%	74.8%	76.5%	75.7%	72.7%	74.7%
シティホテル	33.6%	50.1%	68.8%	72.3%	66.9%	72.0%	74.0%	76.3%	75.3%	72.8%	71.6%
簡易宿所	16.6%	21.2%	25.1%	29.0%	25.4%	26.8%	29.3%	27.5%	29.4%	28.3%	33.2%
福岡県 (B)	34.3%	46.8%	64.8%	72.1%	67.8%	74.6%	72.6%	74.1%	73.0%	69.6%	68.9%
旅館	19.9%	25.1%	25.8%	28.7%	29.0%	31.9%	33.3%	32.4%	31.8%	25.5%	29.8%
リゾートホテル	19.3%	28.4%	55.2%	52.9%	50.7%	55.7%	66.9%	61.8%	62.7%	43.3%	60.7%
ビジネスホテル	37.4%	50.4%	69.3%	77.6%	73.2%	80.6%	77.5%	78.9%	77.7%	74.1%	75.0%
シティホテル	39.8%	58.0%	72.4%	75.6%	65.6%	74.9%	76.2%	77.2%	71.1%	70.7%	64.1%
簡易宿所	12.9%	22.5%	44.1%	40.9%	38.6%	48.7%	43.0%	46.1%	45.0%	46.0%	48.9%
(B)－(A)	0.0	0.2	7.8	12.5	13.2	14.4	11.3	12.5	11.2	10.6	7.5
旅館	△ 2.9	△ 8.0	△ 10.9	△ 7.4	△ 3.9	△ 4.7	△ 5.1	△ 2.9	△ 6.9	△ 9.8	△ 7.8
リゾートホテル	△ 8.0	△ 15.0	3.3	△ 1.2	△ 0.7	△ 2.7	9.5	8.0	8.1	△ 7.7	3.9
ビジネスホテル	△ 6.9	△ 6.3	0.1	3.9	6.5	6.3	2.7	2.4	2.0	1.4	0.3
シティホテル	6.2	7.9	3.6	3.3	△ 1.3	2.9	2.2	0.9	△ 4.2	△ 2.1	△ 7.5
簡易宿所	△ 3.7	1.3	19.0	11.9	13.2	21.9	13.7	18.6	15.6	17.7	15.7

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

※2025(R7)年は第二次速報値

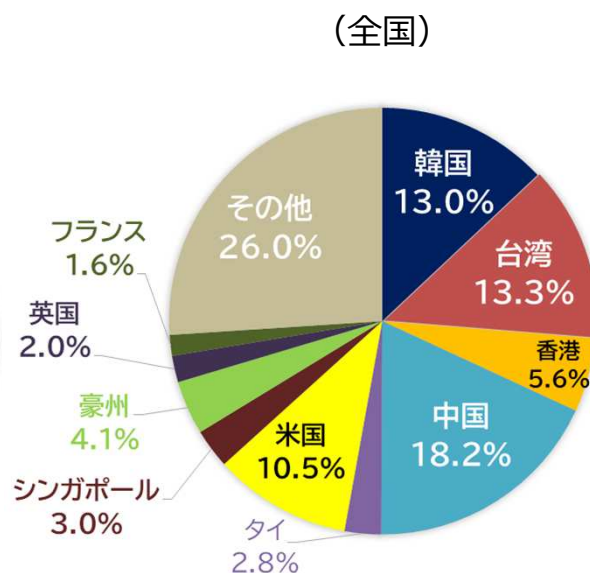
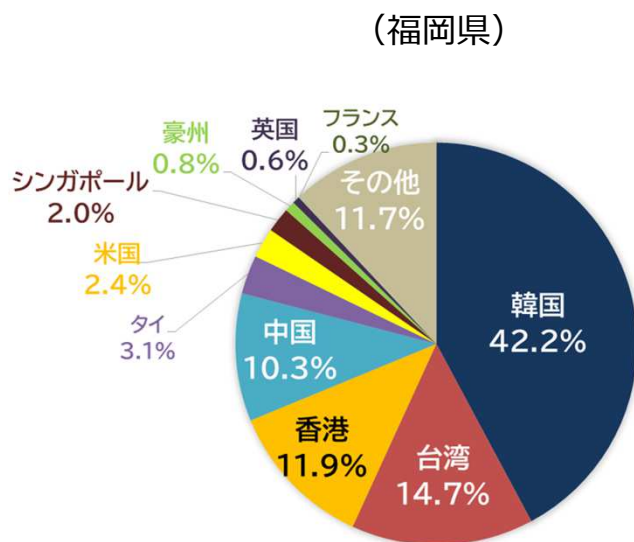
2 本県の現状と課題について

7

(2) インバウンドの現状①（国・地域別延べ宿泊者数）

- 本県における昨年の外国人延べ宿泊者数を国・地域別に見ると、韓国が42.2%とほぼ半数を占めており、次いで台湾、香港、中国となっており、東アジアで全体の約8割を占めている。
- 一方、欧米豪の割合は全国との比較で低い。リピーター需要が見込まれる東アジアからの誘客にも引き続き取り組むとともに、欧米豪からの更なる誘客に注力していく必要がある。
- また、上記の地域に加えて、成長著しい有望市場として期待されている中東市場においてもターゲット市場として誘客に注力していく必要がある。

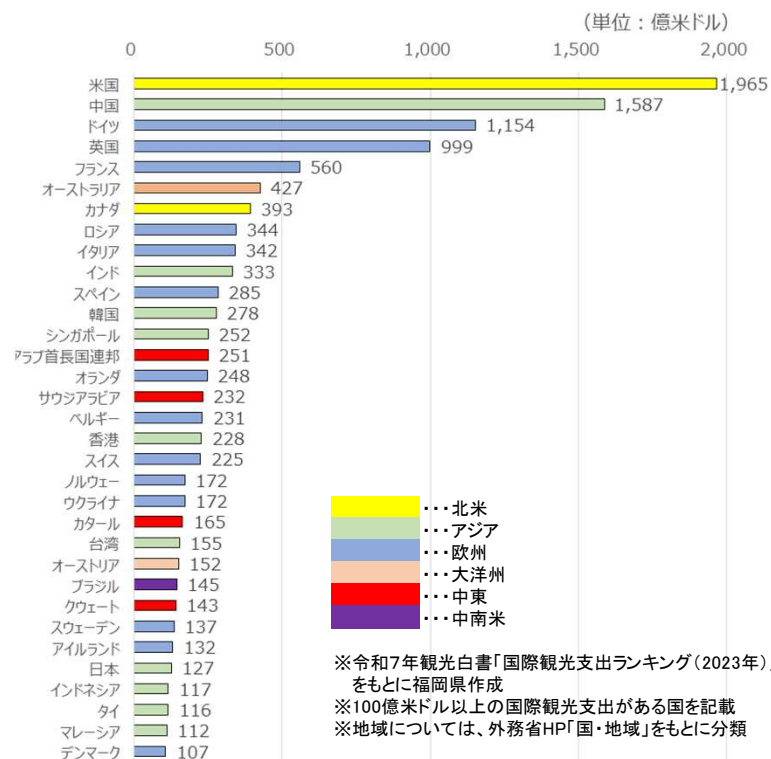
国別・地域別 延べ宿泊者数（2024年）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに福岡県作成

※従業員10名以上の宿泊施設が対象

国際観光支出の状況



(2) インバウンドの現状②（入国者数・周遊率）

- 本県の外国人入国者数は、依然アジアからが圧倒的に多く約96%を占めている。欧米豪などその他の地域は、そのほとんどが直行便が就航している成田空港・羽田空港・関西国際空港から入国している。
- 東京都を訪問した欧米豪の旅行者が、その前後に本県を訪問している割合はわずか2.1%であり、京都府の30.9%、広島県の9.0%に比べて低調に留まっている。
- 欧米豪については、現時点直行便が就航していない状況で大きく増やすことは困難。そのため、本県の魅力発信を強化し、少しでも認知度を向上させることにより、成田空港・羽田空港・関西国際空港経由の入国者の本県への周遊を促す取組が必要。

国別・地域別 港別入国者数（2024年1～12月）
※通常入国外国人

国籍・地域	全国	福岡県							全国シェア (B)/(A)
	総数 (A)	苅田	関門 (門司)	関門 (戸畑)	北九州 (空港)	博多	福岡 (空港)	福岡県 計 (B)	
総数	36,779,964	2	1,716	11	61,399	111,397	3,416,860	3,591,385	9.8%
アジア	29,465,789	2	23	4	60,879	91,559	3,290,427	3,442,894	11.7%
ヨーロッパ	2,493,126	0	528	7	148	9,585	47,812	58,080	2.3%
アフリカ	55,969	0	4	0	3	37	1,143	1,187	2.1%
北アメリカ	3,517,612	0	796	0	322	7,165	58,625	66,908	1.9%
南アメリカ	198,043	0	18	0	8	701	1,630	2,357	1.2%
オセアニア	1,048,845	0	347	0	39	2,350	17,208	19,944	1.9%
無国籍	580	0	0	0	0	0	15	15	2.6%

(参考) 主要空港における外国人入国者数

国籍・地域	全国	千葉県		東京都		大阪府	
	総数 (A)	成田 (空港)	全国シェア	羽田 (空港)	全国シェア	関西 (空港)	全国シェア
総数	36,779,964	10,894,962	29.6%	6,258,927	17.0%	9,457,919	25.7%
アジア	29,465,789	8,049,022	27.3%	3,351,483	11.4%	8,427,940	28.6%
ヨーロッパ	2,493,126	875,449	35.1%	989,955	39.7%	448,947	18.0%
アフリカ	55,969	28,785	51.4%	14,865	26.6%	9,435	16.9%
北アメリカ	3,517,612	1,425,929	40.5%	1,467,101	41.7%	371,102	10.5%
南アメリカ	198,043	81,103	41.0%	75,085	37.9%	30,625	15.5%
オセアニア	1,048,845	434,402	41.4%	360,276	34.3%	169,775	16.2%
無国籍	580	272	46.9%	162	27.9%	95	16.4%

※出入国管理統計（法務省）をもとに福岡県作成

欧米豪旅行者（東京都訪問）の他県への周遊率

順位	周遊地域	周遊率	順位	周遊地域	周遊率
1	京都府	30.9%	11	埼玉県	6.5%
2	大阪府	28.4%	12	岐阜県	6.0%
3	神奈川県	22.9%	13	石川県	4.6%
4	千葉県	19.7%	14	長野県	4.6%
5	愛知県	11.4%	15	滋賀県	4.1%
6	奈良県	11.3%	16	栃木県	3.3%
7	静岡県	9.5%	17	岡山県	3.1%
8	広島県	9.0%	18	福岡県	2.1%
9	山梨県	7.9%	19	北海道	2.0%
10	兵庫県	7.7%	20	福井県	1.9%

※九州経済調査協会「おでかけウォッチャー（訪日版）」をもとに福岡県作成
※対象地域：ヨーロッパ、北アメリカ、オセアニア
※対象期間：2025年1月～8月

(3) 第三次福岡県観光振興指針の数値目標の見直しについて

- 目標値（K P I）については、インバウンド需要が牽引し、多くの指標で既に目標値を上回っている状況。しかしながら、全体の約7割を占める日本人延べ宿泊者数は横ばいの状況。
- また、外国人の延べ宿泊者数について、その内訳を宿泊地域別にみると両政令市を含む福岡地域、北九州地域の割合が高く、特に福岡地域が突出しており、筑後・筑豊地域については目標値に達成していないと推察される。
- このことは、宿泊施設タイプ別の稼働率からも読み取れる。都市部に多く立地しているビジネスホテルの稼働率は77.6%と全国で6位と高い水準にある一方、その多くが都市部から離れたところに立地する旅館の稼働率は28.7%と、全国で40位に留まっており、両者には大きな開きがある。指針の柱として掲げている「旅行者の県内周遊の促進」について、十分な成果が出ている（達成できている）とは言い難い状況。
- これらを踏まえ、拙速な数値目標の見直しは行わず、県内周遊の更なる促進に係る施策に取り組む必要がある。

福岡県内地域別 外国人延べ宿泊者数

	R4	R5	R6	目標達成率	目標値 R8
外国人延べ宿泊数	60.6万人泊	503.8万人泊	738.6万人泊	129.1%	572万人泊
うち 福岡	57.7万人泊	480.1万人泊	707.8万人泊	130.1%	(※) 544万人泊
筑後	0.6万人泊	2.7万人泊	4.5万人泊	75.0%	(※) 6万人泊
北九州	2.2万人泊	19.9万人泊	25.2万人泊	120.0%	(※) 21万人泊
筑豊	0.2万人泊	1.1万人泊	1.2万人泊	60.0%	(※) 2万人泊

【出典】観光庁「宿泊旅行統計（広域市町村（130区分）別集計）」

（表示単位未満四捨五入の関係で、積上げと合計が一致しない箇所がある）

※ 目標値（R8）の地域別延べ宿泊数は第三次観光指針策定時点のR4の構成比で割り戻した福岡県推定値

旅館の客室稼働率（2024年）全国上位・下位10県

順位	都道府県	稼働率	順位	都道府県	稼働率
1	神奈川県	51.0%	38	奈良県	30.4%
2	香川県	45.0%	39	福島県	30.3%
3	島根県	44.5%	40	福岡県	28.7%
4	大分県	44.1%	41	長野県	27.9%
5	栃木県	43.7%	42	福井県	27.4%
6	北海道	43.5%	43	埼玉県	26.9%
7	宮城県	42.5%	44	新潟県	26.6%
8	広島県	42.5%	45	徳島県	26.3%
9	滋賀県	41.7%	46	愛知県	24.9%
10	群馬県	41.2%	47	岡山県	23.7%

【出典】観光庁「宿泊旅行統計」

(4) 現状を踏まえた主な課題について（意見交換）

課題1 国内観光客の誘客促進

伸び悩んでいる日本人延べ宿泊数を増やしていくために、誘客を促す取組が必要。具体的には、「ふくおか平日おトク旅」での個人旅行需要喚起に加え、高齢者や障がいのある方など、全ての人が安心して県内周遊を楽しめるようユニバーサリズムの取組も必要ではないか。

課題2 県内周遊促進強化

福岡市・北九州市に集中している来訪者・宿泊者の県内周遊を促すため、各地の魅力を高めるための取組や2次交通の充実などの取組が必要ではないか。

課題3 インバウンド需要の一層の取込

インバウンド需要の一層の拡大を図るため、アジアからのリピーターの確実な取込、欧米豪からの誘客拡大に加え、成長著しく有望市場である中東へのプロモーションが必要ではないか。

課題4 施策に即した目標設定の検討

現状、県内全域での数値目標設定となっており、政令市の動向に左右される状況。指針の柱に掲げている「旅行者の県内周遊の促進」を反映できる目標設定の検討が必要ではないか。